

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	スクールカウンセラー派遣事業		
事業担当	学校教育部 子ども教育相談センター		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	人間力 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、保護者、教職員	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
不登校をはじめ、児童、生徒の様々な問題行動等が改善されています。		児童、生徒の様々な問題を解決するため、本人や保護者のカウンセリングを行い、教職員を援助するスクールカウンセラーを各小中学校に派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名	スクールカウンセラー派遣人数			単位	人
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	13	13	13	13	
	実績	13	13	13		
活動指標	指標名	スクールカウンセラー配置学校数			単位	校
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	43	43	43	43	
	実績	43	43	43		
成果指標	指標名	スクールカウンセラーに係る学校評価			単位	点
	説明・算定式	「派遣により、支援を必要とする児童生徒への対応に効果があった」とする評価(5段階)の派遣している小中学校からの回答の平均値				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	4.4	4.4	4.6	4.6	
	実績	4.5	4.5	4.5		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	：予定どおり					
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
市スクールカウンセラー13人を、小学校28校全校に、中学校15校中11校に配置し、県のスクールカウンセラーと合わせて小・中学校全校に配置することで、児童・生徒、保護者及び教職員に対する支援を行いました。校内での相談活動や他機関との連携の活性化が図られ、児童・生徒の心理的安定、及び問題行動等の解決につながりました。						
平成26年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	不登校など様々な課題に対し、学校におけるスクールカウンセラーの必要性が強く求められています。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	校内でのカウンセリング、研修会、ケース会議での助言等を行い、支援体制の一端を担っています。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	専門的な知識や経験を生かし、学校内での問題解決に取り組んでいます。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	各学校に配置されていることで、保護者、教職員への相談の機会が増え、相談体制が充実しています。	高中低
今後に向けた課題の分析				
市スクールカウンセラー13人を小学校28校全校に、中学校15校中11校に週1回の配置ができましたが、残り4校の配置ができると、県のスクールカウンセラーと合わせて、全中学校に週2回の配置ができます。2人の増員とその後は、勤務日数等の面で学校現場のニーズに応えるために、勤務日を増やすことが必要となります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		スクールカウンセラーの派遣	スクールカウンセラーの派遣	スクールカウンセラーの派遣	スクールカウンセラーの派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	29,992	29,765	30,036	30,311
事業費 (A)		29,992	29,765	30,036	30,311
執行率 (%)		99.58	99.43	98.91	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針
市スクールカウンセラーを2人増員し、全小中学校に配置していきます。また、勤務日数等の面で勤務体制の見直しを行い、勤務日の増加を目指します。
課長コメント
いじめ、不登校、発達の課題等、学校現場が抱える教育課題に対し、臨床心理の側面から様々な活動を行い、児童・生徒や保護者、教職員を支援しています。こうした活動は、子どもたちの安心・安全な学校生活に大きく寄与し、高い評価を得ています。週1、2回の配置では、不十分であるとの声も依然多く聞かれ、スクールカウンセラーの増員と勤務日の増加を図りたいと考えます。